

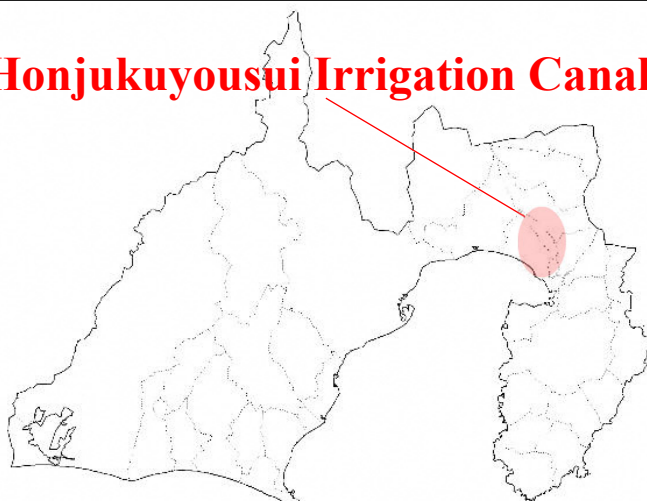
世界かんがい施設遺産

ほんじゅくようすい

本宿用水

[静岡県・長泉町]

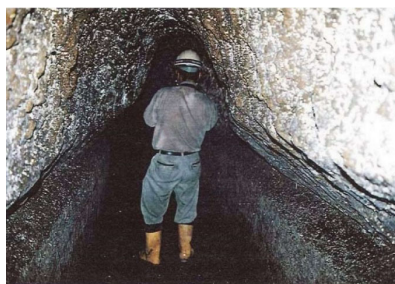
Honjukuyousui Irrigation Canal



～隧道と水路を造った日本の水利掘削技術の手本～



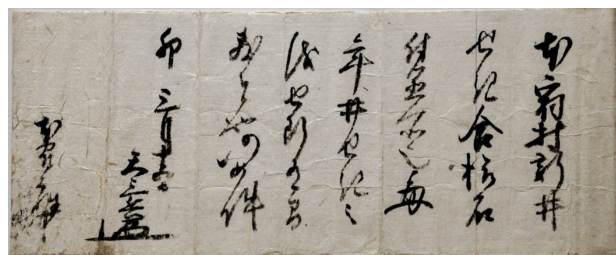
本宿用水取水堰（新井堰）・黄瀬川下流側よりの全景



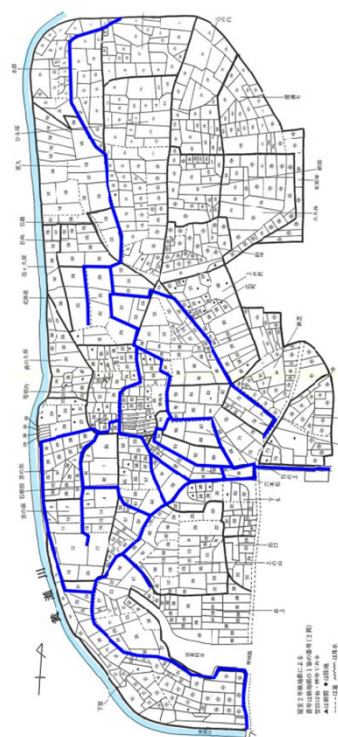
1603年完成当時の隧道（手掘り）
甲州流水利法（蜘蛛巣間切）を活用



1998年改修当時の隧道
（コンクリート巻立て）



天野三郎兵衛康景が本宿用水に下した手形



本宿村1870年代耕地絵図と本宿用水水路図

出典：高橋廣明著「近世村落の形成」、同成社

- 本宿用水は、黄瀬川にある鮎壺の滝の上部に位置する新井堰から取水した、延長約500mの隧道と約2kmの水路で造られたかんがい施設である。
- 黄瀬川流域は、川底が深く、降水時には暴れ川となり、技術的に川水を取水することが難しく、16世紀まで、本宿村は稲作ができない貧困地帯であった。そこで、本宿村では1601年に、徳川家康から任命された、領主・興国寺城主の天野三郎兵衛康景に隧道掘削の許可を嘆願し、当時最先端の水利土木技術である「甲州流水利法」を駆使し、1603年に本宿用水が完成し、安定的な農業経営が確立された。
- 本宿用水の隧道通水の水利技術や鉄のノミを使用した人力による掘削技術、行燈を使う測量技術などは、67年後に造られた「深良用水」（平成26年世界かんがい施設遺産登録）建設時の手本として活かされており、日本における「取水技術・通水技術・配水技術」の先進的な技術を集結した「規範」と評価されている。
- 完成から420年が経過した今でも、本宿共有財産管理委員会や本宿部農会を中心に、区民との連携・協働により、適正に維持管理・使用されており、本宿地域の水田地帯に安定的にかんがい用水を供給している。今では、防火用水や生活用水など、豊かな地域社会と農業の発展を支える、重要な「水資源」として大切に保全管理されている。